

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、細江圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和3年3月11日（木） 10:00 から 12:00 まで
参加者	委員：14人 関係機関：17人
場所	浜松市みをつくし文化センター 2階大研修室
内容	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 細江圏域生活支援体制づくり協議体 会長 浜松市健康福祉部高齢者福祉課 医療・介護推進担当課長</p> <p>3. グループワーク 手 順（1.グループワーク ➡ 2.各グループの発表 ➡ 3.全体会） 三つのグループ（細江・引佐・三ヶ日）に分かれ、下記のテーマについてグループワークを実施。最初に、グループワークのやり方について説明し、なぜ、このテーマにしたのかの説明を行う。 (テーマ) ～来年度からの細江、引佐、三ヶ日地域の生活支援体制づくりに向けた取り組みについて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●細江グループ テーマ「全世代参加のサロン開設に向けて」 ●引佐グループ テーマ「引佐発！福祉啓発について」 ●三ヶ日グループ テーマ「サロン活動を広げよう！」 <p>細江・引佐・三ヶ日グループの内容</p> <p>細江グループ</p> <p>【周 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉についての周知、広報 ・地域の人材を登録 ・人との関わりが好きな人、ボランティア募集 ・子育て世代が同世代で関わるのが少ないので、そういう機会があるとうれしい <p>【拠点づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い活動（子育て支援の親子が参加、会場の確保） ・サロンだと担い手と受け手が明確に分かれるので、“カフェ”のような誰でも集える場所にする <p>【日常的な関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援＋サロン ・子ども食堂＋食事会 ・サロン＝児童会（春、夏休み等同じ場所で行う）

- ・高齢者が子どもに昔の遊びを教える
- ・地域包括で、リハビリ・脳トレの出前講座をします

【移動支援】

- ・会場に行くまでの移動支援

【三世代地域イベント】

- ・自治会でのイベント等、世代を超えた行事に老いも若きも参加できる様々な仕組みづくり、その中でのサロン活動を・・・
- ・昔からの行事を残す（七夕、月見、正月、ひな祭り、端午の節句）
- ・住民にささえあいポイント事業を周知する
- ・時々、シニアクラブ等の活動に子ども会等を招いて合同開催する
- ・おばあちゃんGO！認知症の周知
- ・健康や趣味、食べ物をテーマにして専門家や家族にも参加を促す

【既存の団体】

- ・主体は、自治会⇒協力団体は、シニアクラブ、民生児童委員協議会、婦人会など
- ・関わる人⇒自治会、各種団体の協力していただける人達
- ・地域のリーダー⇒自治会、民生児童委員等、社会福祉に関わる団体の人に参加していただく

【ボランティア】

- ・学生ボランティア
- ・PTAや子育て世代
- ・ボランティアには現状のシニアクラブだけでなく、自治会からも募ってもらう

【場 所】

- ・社会福祉施設、公民館、防災センター

引佐グループ

【依頼先】

- ・自治会から周知
- ・幅広い世代（高齢者から小、中、高校生）
- ・子どもだけでなく親子で参加
- ・生涯学習の絵画教室の人と一緒に

【内容／テーマ】

- ・福祉の中でもテーマの選定が必要
- ・ポスター以外の手段でも（標語とか）
- ・応募は子供会、学校（保育園から高校生くらいまで、放課後児童クラブの教室も含む）に依頼する
- ・ポスターが啓発に直接つながるものがないのでは
- ・ポスター⇒情報提供につながるものがないのでは
- ・子育て世代の考えを集めていきたい

- ・依頼する先の時間のゆとり等も下調べが必要

【展示場所】

- ・商店、郵便局など地域の社会資源（場所）を活用
- ・文化祭とコラボして展示や紹介していく
- ・市社協北地区センター、協働センター、福祉施設、保育園、公民館、学校等

三ヶ日グループ

【サロンの説明】

- ・情報共有【サロンの活動内容、活動地域（参加者の範囲）、他地区からの参加】
- ・サロン活動が地域住民に十分理解されていないと思うので、サロンの説明をする
- ・シニアクラブのない地区こそ立ち上げたい
- ・少人数でスタート、まずはお茶会から

【活動内容】

- ・現状把握（今、活動しているサロンの活動状況を把握）
- ・各地域のサロン活動を福祉委員に認知してもらう
- ・サロン以外のシニアクラブの活動についても状況を把握
- ・自治会活動の内容整理、活動地域の整理
- ・各団体で把握している活動内容を集めて情報共有する
- ・どこで、どんなことを、誰が主体で、どんな人が参加して、どの位の回数で、やっている事を調べてみたらどうか。（現状把握、情報共有、情報提供）

【サロン活動の中味】

- ・Wi-Fi 等デジタルの活用により、より広い趣味の活用、Eスポーツ
 - ➡デジタル機器への補助
- ・趣味の発表の場として活用も可能では
- ・人が集まりやすいサロンの内容を企画

【サロン活動のイメージ】

- ・まずは、缶ビールと野球観戦で十分
- ・男性の参加者が少ない
- ・参加者を増やすのにどうしたらよいか
- ・女性の立ち位置が高く、男性が介入しづらい

【当事者の声】

- ・年齢を重ねても社会の中で必要性がある人になりたい
- ・当事者の意見がおきざり、やらされ感があるのか？
- ・意味合いを共有できているか
- ・健康維持も大切だが、社会貢献はできないか

【施設活用】

- ・三ヶ日総合福祉センターをもっと活用するにはどうしたらいいか

	<p>【サロンの継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動を継続するには、参加者が気軽に立ち寄れる場の雰囲気づくりが大切 ・活動内容については、運営する人があまり負担にならないように配慮する <p>【サロンに参加していない人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアクラブは、自主的な団体で自主的な活動をしているので、加入者を把握する事ができるが、どこの団体にも所属せず、孤立している高齢者を誰が把握して、その人たちへの支援や働きかけをどうするかが課題 <p>全体会・まとめ</p> <p>「細江圏域（協議体）として取り組むべき事について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域で生活支援体制整備の充実、強化に向けた取り組みが行われている ・細江圏域（協議体）の活動の柱は、そうした各地域の活動を支援していく事 <p>「細江圏域としてできる事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の活動発表会 ・生活支援体制づくり、地域づくり講演会 ・協議体だより、協議体情報、協議体新聞などの発行 <p>（住民の皆様は協議体は何をやっているのか知っていただく。）</p> <p>●次回開催予定について</p> <p>4月下旬から5月にかけて開催予定。</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>今後の人口減少、さらなる少子高齢化の進展による多くの生活課題について、地域の皆さんとそうした意識や情報を共有するとともに、これからの生活支援体制整備の充実に向け、既存の活動を基盤にしながら、各関係機関等とも協働して、実現できそうな取り組みから始めていきたい。</p>